

ひだご坊

No.328
2016年11月20日

発行 真宗大谷派 高山教務所
発行者 出雲路 善公
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

報恩講厳修



今年も十一月一日から三日まで、高山別院の報恩講が勤められました。報恩講は多くの方が思い入れのある特別な仏事です。そのため、一年に一度の特別な莊嚴(しょうげん)を行い、多くのご門徒さんによつておみぎがき、お掃除がなされ、お華東(けずく)が盛られ、仏花が立てられます。今年も境内では恒例となった大根汁をはじめ、さまざまなお店が出され賑わいました。多くの皆様方の関わりをもつて、高山別院の報恩講は何百回となく営まれてきました。何百年も続いてきているというこの事實は、厳肅(げんじゆ)に受け止めなければならぬと思います。しかし、当初から今のように賑わっていたわけではございません。親鸞(しんらん)聖人が明らかにされた本願念仏(ほんがんねんぶつ)の教えに生き抜いてきた先達(せんた)が集まり、そのご恩に感謝する仏事が年月を重ねて賑わうようになったのではないのでしょうか。しかし昨今では、賑わなければ報恩講でないという思いに苛まれ、どうしたらたくさんの人にお参りいただけるかに思いがいつてしまい、



報恩講が「仏事」ではなく「行事」になつてしまいがちです。報恩講で毎年拝読される『御俗鈔(ごぞくしょう)』には「聖人の御恩を報謝(ほうせ)するところろざしはあるのか」、「聖人と心の響きあいのない名ばかりの門徒ではないのか」、次々と厳しいお言葉を投げかけられてきます。そして最後に「お前は南無阿彌陀仏(なんむあみだぶつ)を必要としていないのか」という鋭い問いが突き刺さりま



私(わたし)が長崎(ながさき)におりましたときのこと思い出します。ある寺院の報恩講にお参りさせていただくと、多くの参拝者(さんぱい)で満堂(まんどう)でした。「ここはよくご門徒(もんた)さんが参つておられるなあ」と感心(かんしん)して住職(しゆしやく)さんに尋ねてみますと、「毎座(まいざ)こんなもんですよ」と当たり前



高山別院輪番 出雲路 善公
そのお寺は、毎月36か所の同朋会(どうぼうかい)を各在所(ございしょ)で行つており、ご住職(しゆしやく)が地道(じどう)に足しげく通われ、お念仏(ねんぶつ)の教えをじっくりと時間をかけて語つておられたのです。ですから、そのお寺での報恩講は、自然(しぜん)と報恩謝徳(ほうおんせとく)の集い(つみ)となつていたのです。



表彰状を受けられた今井武男さん・山本常一さん・樺木一男さん・下嶋辰昭さん・田中 勇さん・保木 隆さん

高山教区・高山別院としても衣服(いふく)を整え、襟(えり)をただしてこれからの一年間(いちねん)を教化活動(けわか)に専念(せんねん)いたしてまいります。そして、一人ひとりが報恩謝徳(ほうおんせとく)の念(ねん)をもつてご参拝(さんぱい)できるよう努(こ)めてまいります。



宗教トラブル相談窓口(0577-13210763)

子ども報恩講を終えて

11月12日、子ども報恩講を開催いたしました。初めて来てくれる友達や顔なじみの友達も来てくれました。また、天候も子ども達の笑顔のように眩(くら)しい太陽に恵まれ、穏やかな一日となりました。今年(ことし)は忙しい中、青少幼年(せいしょうごうねん)のメンバー以外(おとな)に大谷婦人会(おほやぶにんかい)の方々(かたがた)や若手寺族(わかしよてらぞく)のお力添(ちからぞく)えで開催することが出来ました。今年(ことし)は「親鸞(しんらん)と弁円(べんえん)」の紙芝居(かみしばい)をみんなで観(み)ました。その後(そののち)、五辻駐在(ごじつちざい)教導(きょうどう)より紙芝居(かみしばい)をうけて阿彌陀様(あみださま)のおはたらきや、ご自身(ご自身)の実体験(じつたいけん)などわかりやすくお話をいただきました。昼食(ひるめし)は子ども報恩講(こどもほうおんこう)名物(めいぶつ)の「うどん」をみんなでおいしくいただきました。最後にうどんの準備(じゆんび)を下(くだ)さった大谷婦人会(おほやぶにんかい)の皆さん(みなさん)といつものお姉さん(おねえさん)にお礼(れい)を言(い)って、お楽しみ(おんぎな)の「遊びの広場(ひろば)」にレッツゴー！今年(ことし)は三輪車(さんりんしゃ)レースがなく、子ども達は残念(ざんねん)そうでしたが、射的(しゃてき)・缶倒(かんとお)し・ストラックアウト(ストラックアウト)・綿菓子(わたがし)と行列(ぎょくぎょう)がなくなることがなく、きらきらとした目で遊ぶ子ども達(こどもたち)を見ると、これからも子ども達(こどもたち)と出遇(であ)っていきたいと思(おも)える時間(じかん)でした。



浄土の莊嚴(じょうど) 別院華方(べついんはなかた)

仏教各派(ぶつこうかくはい)の特徴(とくごう)を言い表(あらわ)した「禪掃除(ぜんそうじゆ)、真言料理(しんごんりょうり)、門徒(もんた)華(はな)」ということばがあります。門徒(もんた) (真宗門徒(しんそうもんた)) の莊嚴(じょうげん)では、仏花(ぶつが)がとても華やか(はなやか)で目を引(ひ)くということから、そのように言(い)われてきたのです。真宗門徒(しんそうもんた)が仏花(ぶつが)を非常に大事(だいじ)にしてきたという歴史(れきし)がうかがえます。

去(こ)る11月1日(いちにち)、高山別院(たかやまべついん)の仏花(ぶつが)を立てられている華方(はなかた)さんの感謝状贈呈式(かんしんじょうおくりまわし)が報恩講(ほうおんこう)中に執(と)り行(おこな)われました。今回(こんかい)感謝状(かんしんじょう)が贈(たま)られたのは、20年以上(20ねんいじょう)上(じょう)勤続(きんじゆく)された4名(よんめい)、30年以上(30ねんいじょう)上(じょう)勤続(きんじゆく)された1名(いちめい)、40年以上(40ねんいじょう)上(じょう)勤続(きんじゆく)された1名(いちめい)の計(けい)6名(むえい)です。お話をうかがうと、「華方(はなかた)は上下(じやうげ)関係(かんけい)ではなく一緒(いっしょ)に技(わざ)を磨(ひ)き、人間(にんげん)を磨(ひ)く場(ば)」、「まめにでさせてもらつてありがたい」、「昔(むかし)やんちゃをしていて、花(はな)でも立てよと言(い)われここに連れて来(こ)られた。気が付(き)いたらここまで来(こ)ていた」と話(わ)されました。

真宗大谷派(しんそうおほやぶはい)の仏花(ぶつが)は必ず生花(なまはな)を用(もち)います。ということとは、同じ花(はな)は二度(にど)と立てられないということ(こと)です。その都度(ごと)その都度(ごと)の花(はな)のいのちに出(い)あわれ続(つ)けた華方(はなかた)さん。その一つ(ひとつ)のいのちの歴史(れきし)がご坊(ぼく)さまを彩(いろ)つてきました。

飛驒御坊(ひでつゝみぼく) 御遠忌(ごえんぎ)通信(つうしん) ⑤ 屋根完成!! 御遠忌(ごえんぎ)記念事業(きねんじぎょう)の第一期(だいいちき)工事(こうじ)として行(おこな)われた、本堂(ほんどう)屋根葺(やねふ)き替え(かえ)工事(こうじ) (銅板葺(どうばんふ)及(およ)び庫裡(くら)改修(かいしゆ)工事(こうじ) (便所(べんじよ)新設(しんせつ)及(およ)び水屋(みづや)改修(かいしゆ))は、10月6日(じゅうごふにち)に工事(こうじ)検査(けんさ)を実施(じっし)し、全(ぜん)ての工事(こうじ)が完了(げんりょう)したことが確(た)かされたこと(こと)から、10月25日(じゅうごふにち)に(株)中村社(かぶちゅうむらじや)寺(てら)より引(ひ)き渡(わた)しが行(おこな)われました。本堂(ほんどう)屋根改修(やねかきしゆ)工事(こうじ)については、今年(ことし)4月(しがつ)に足(あ)場(ば)が設置(ていじ)され、5月(ごがつ)から6月(ろくにんげつ)にかけて屋根瓦(やねがわ)の撤去(てつこ)が、6月(じゅうごがつ)から8月(はちがつ)にかけて木(き)工事(こうじ)を行(おこな)い、8月(はちがつ)中旬(ちゆうぐん)から9月(くわがつ)末(まつ)にかけて銅板葺(どうばんふ)工事(こうじ)が行(おこな)われました。今年(ことし)は比較的(ひかくてき)雨(あめ)の少ない(すくない)気(き)候(こう)であ(あ)ったこと(こと)もあり、全(ぜん)ての作業(さぎょう)が順(じゆん)調(ていじゆ)に進(すす)み、高山別院(たかやまべついん)の新たな威容(いよう)が姿(すがた)を現(あらわ)しました。

私を照らす

ひかりの言葉 ⑬

酒井 義一

いつまでも若くて健康で... 私を照らす

しかし、このような思いは、実は... 世が抱える問題

2016年7月下旬、神奈川県... 世が抱える問題

彼の考えや行為を正当化するこ... 出会いの欠如

出会いの欠如

彼は「障がい者の人たちは何を考... ひとりと出会う

ひとりと出会う

親鸞さまはひとりと出会うとい... 御文

御文

「御文」には、「親鸞は弟子一人... 目の中にいるひとりの人を「か

彼はそこに生きるひとりとは、... 老少善悪・賢哲愚夫・豪貴鄙賤

老少善悪・賢哲愚夫・豪貴鄙賤

今回の事件の被害者の家族は「息... 殺されても良いのちなど、存在

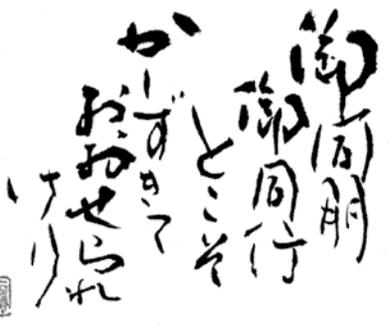
子には、障がいがあるなしに... やがて彼は自分をも殺す

やがて彼は自分をも殺す

彼も縁が熟せば、いつだって障が... 「いなくなればよい」という考えは

そんな時に、自らに牙をむきます... 「自害害彼」(仏説無量寿経)。

「自害害彼」(仏説無量寿経)。
つまり彼を害することは、同時に自



今回は藤場芳子さんの「女と男のナムアミダブツ」です。

子ども作品展

10月22日から11月3日まで、小・中学生の書道作品316点が別院本堂内に展示されました。また11月3日には報恩講に参拝された方々が見守る中、表彰式が行われました。入選者は次のとおりです。書道塾・教室、個人から出展いただいた皆さま、ありがとうございます。



【教務所長賞】

【輪番賞】

御坊報恩講 大如来 慈悲

御坊報恩講 大如来 慈悲

- 【金賞】 たんごうりこ・杉山二郎・神田結・二村紗史・田中ひなの・白野真衣・美素利香・藤井美月・岡田真依
【銀賞】 香川滉貴・谷口紗代・中丸結衣・杉山直己・長瀬綾花・水口怜奈・坂上奈千・竹内太一・都竹萌花
【銅賞】 野中正宗・野中美空・岡田涼佑・番場紳介・江間瑞希・形部航希・荒城妃那・池田萌花・清水真帆



- 【佳作賞】 清水愛美・押手珠希・上川渡莉奈・美素宏紀・畑中朝陽・なかしまゆう・えさきゆな・千垣内心翔・小林美早紀・松田瑛斗・窪田蓮・田中凜・岩佐柚紀・榎森和夏・岩西大希・島田怜果・松永彩花・水谷旭杜・土野真緒・橋本佳幸・窪田温・竹内友哉・本天心優・橋本ゆい・野中萌那美・二村公啓・堀こころ・吉村陽菜・下田明日葉・谷口晴紀・田中みのり・東亜美・池田結以那・早川夏生・佐藤心晴・石原梨々子・田中友麻・宮崎明音・村上由莉・村上夢・桜本愛佳・白田裕也・稲田静香・問坂昂太郎・宮田千帆

11回壇案内

【12月】 4日(日)蓮乗寺「若達町」 第35回 別院真宗公開講座 【第2回】 日時 12月14日(水) 午後2時~4時 講師 田口 弘 氏 (東京教区慈願寺) 講題 念仏者の「お仕事」 聴講料 600円

高山別院 報恩講奉仕御礼 報恩講にはたくさんの方に協力いただきました。あらためて厚く御礼申し上げます。 大谷婦人会高山支部 高山教区坊守会 別院華方 石浦華束会 別院雅楽会 仏教讃歌をうたう会 青少年教化小委員会 高山教区真宗同朋の会 高山一組真宗の会 高山一組同朋会代表者会 高山一組門徒会 高山二組門徒会 吉城組門徒会 益田組門徒会 玉翠会飛驒支部 二木社中 おあさじの会 飛驒御坊ボランティア委員会 飛驒仏教青年会 別院教化小委員会 (順不同)